

## 本書の構成

教師に寄り添い、寺院に寄り添い、社会に寄り添い、檀信徒に寄り添う。  
これは宗門ブランドデザインの基本理念として、皆様もご存じの通りです。

本書ではとりわけ、「社会」や「檀信徒」に寄り添うという視点を軸に、グリーフケアやスピリチュアルな苦痛への対応、そして社会、特に「公共空間」で心のケアを行う宗教者の動向やその養成について、取り扱っています。

これらは、人々に寄り添う。という言葉で集約されることがらかもしれません。

葬式離れ、墓離れ、寺離れなどという三離れも、「離れた」のではなく、僧侶自身の驕りや慢心によって「離れた」のではないかという指摘もされます。

変化する時代、多様化する価値観の中で、宗教者がどのようにして人々の心を離さずに寄り添うことができるのか、考えていくことの一助となれば幸いです。

本書の構成は、

- 1章 公共空間で心のケアを行う宗教者の活動と要請
- 2章 事例とコラム —自らを顧みる臨床—  
宗教者による心のケアを念頭にした事例とコラム
- 3章 インタビュー録  
宗教者と連携して人々のケアを行う医療者へのインタビュー
- 4章 公共空間で心のケアを行う宗教者の養成

それぞれの章は独立していますが、人々に寄り添うという視点で共通しています。  
ご興味、ご関心のある所からお読み下さい。